

平城京左京三条二坊十四坪（下層遺構）

発掘調査 現地説明会資料

1. はじめに

平成27年5月から、奈良市三条大路一丁目の奈良警察署跡地において発掘調査を実施しています。遺跡としては、平城京左京三条二坊十四坪にあたり、奈良時代の建物や井戸などの遺構について、昨年12月に現地説明会をおこないました。今回は、継続して進めている下層の調査成果を紹介いたします。

2. 調査の内容

奈良時代の遺構面の下層では、調査区のほぼ全域に広がる水田遺構と、その北側に隣接する流路や、それに取りつく水路を確認しました。水田遺構の年代は、出土する遺物がとても少ないために決め難いのですが、水田遺構に隣接する流路出土の少量の弥生土器から、この水田の営まれた年代は弥生時代前期の可能性が高いと考えられます。

(1) 水田遺構について

水田遺構は、調査区東南部に近年まであった溜池（東池）によって消滅した部分を除くほぼ全域に検出されました。水田遺構の形態は、「小区画水田」と呼ばれるもので、区画された水田圃場（すいでんぼしや）の数は約500区画あります。ひとつの圃場は、水田面よりわずかに3cmほどの高さの畦畔（あぜ）によって区画されています。平面の形態はおおむね長方形で、その面積が約7㎡と小さい点が特徴です。このようにひとつの圃場を小さく区画する理由は諸説ありますが、起伏のある微地形に水平面から圃場を確保するにあたって、土木作業量を最小限に抑えるため、ないしは、湛水時の水田耕作土下への浸透による水抜けを小さくするためなどが考えられています。

圃場を区画する畦畔には、畦幅1m弱の大畦畔と、畦幅30cm程の小畦畔があります。大畦畔およびそれに平行して走る幹線小畦畔は、北東がやや高く西に低い地形を反映し、東北東-西南西の方向で2～3m間隔で配列されており、それらに直交して幹線小畦畔の間を連結する支線小畦畔が2～5mおきに配列されています。そして、畦畔全体の平面形をみると「あみだくじ」状となっています。

水田面には当時の人々の足跡などがしばしばみつかりますが、今回の調査では確認することができませんでした。また、イネが根を張る水田耕作土は、1～3cm程度と非常に薄いものが1層確認できただけで、畦畔を修復した形跡などもなく、この水田が長期にわたって利用されたようには思われません。

(2) 出土遺物について

水田遺構から出土した遺物は非常に少なく、水田遺構を覆う堆積層から収穫具である石庖丁が4点、流路を埋める堆積層から少量の弥生土器片のほか、加工木、流木が出土しているだけです。これは、当時の人々によって持ち込まれて残された無機質なゴミが少ないということであって、水田として当然あるべき姿といえます。

3. まとめ

平城京左京三条二坊十四坪の下層調査では、調査区のほぼ全域に広がる弥生時代の水田遺構を確認することができました。この調査における水田遺構の検出面積は5,500㎡になり、近年発見された御所市の中西遺跡・秋津遺跡など、奈良盆地西南部で広く検出されている水田遺構と十分比較研究できるものです。こうした水田遺構が、奈良盆地北部にも確認できた意義は大きいと考えられます。



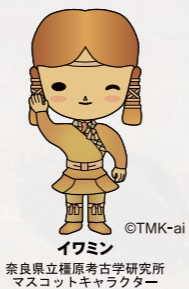
平城京左京三条二坊十四坪（下層遺構）
発掘調査 現地説明会資料

2016年6月25日

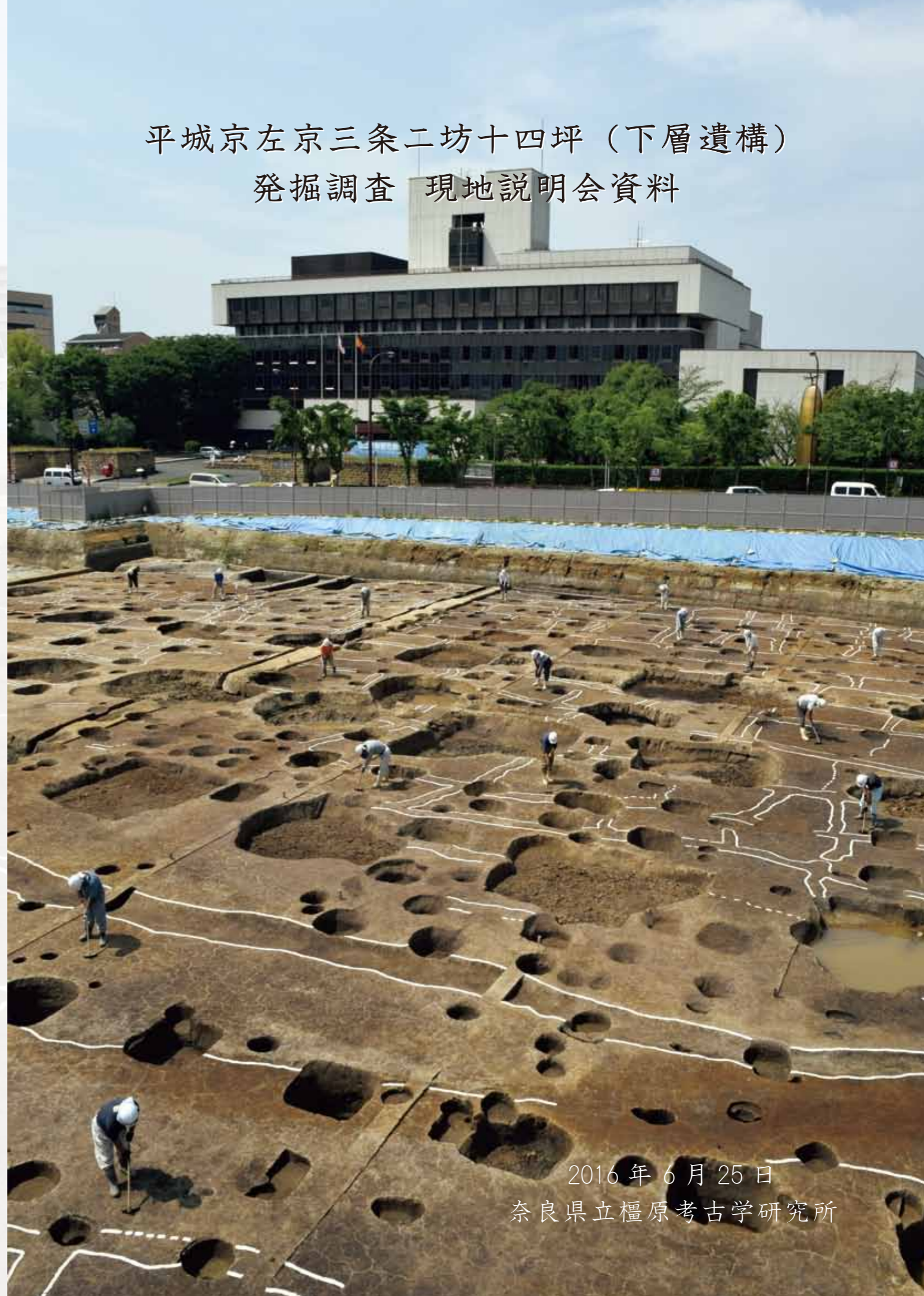
奈良県立橿原考古学研究所
〒634-0065 奈良県橿原市畝傍町1番地

Tel: 0744-24-1101 URL: <http://www.kashikoken.jp/>

(ホームページでも現地説明会の案内・説明内容をご覧ください)



©TMK-ai
イワミン
奈良県立橿原考古学研究所
マスコットキャラクター



2016年6月25日
奈良県立橿原考古学研究所



調査地とその周辺における弥生時代前期～中期の遺跡
「国土院発行2万5千分1地形図(奈良)を使用」

地区名 (遺跡名)	検出遺構 (土器様式)
1 二条地区	[前期] 方形周溝墓・溝・土坑 [中期] 竪穴建物・井戸 (Ⅲ)
2 菅原東地区 (菅原東遺跡)	[前期] 土坑 [中期] 溝
3 佐紀地区 (佐紀遺跡)	[中期] 流路 (Ⅲ)
4 二条大路地区	[前期] 竪穴建物・土坑 (井戸?)
5 二条大路南地区	[前期] 水田 [中期] 溝・包含層
6 大宮地区	[中期] 流路 (Ⅳ)
7 四条大路地区	[中期] 竪穴建物・方形周溝墓・土坑・流路
8 柏木地区 (柏木遺跡)	[中期] 方形周溝墓・土坑
9 大池地区 (大安寺西遺跡)	[前期] 土坑・溝 [中期] 土坑・溝・包含層 (Ⅱ～Ⅳ)
10 大森地区	[中期] 溝 (Ⅳ)
11 杏地区 (杏遺跡)	[前期] 土坑・流路 [中期] 土坑 (Ⅱ)、包含層 (Ⅳ)
12 東市地区 (東市遺跡)	[中期] 土坑
13 北之庄地区	[中期] 土坑・溝

【凡例】地区名は、秋山成人1995『奈良市の弥生遺跡—平城京下層遺構にみる弥生集落』『みずほ』第15号に拠る。

▶ 調査区の北辺には水田に接する流路があります。ここから田に水を引いたのだと考えられます。流木や木材などが出土しました。



▼ 水田圃場は、低い畦畔で長方形に小さく区画されています。ひとつひとつが非常に小さいのが特徴です。湛水深は浅く、1～2cmといったところでしょうか。

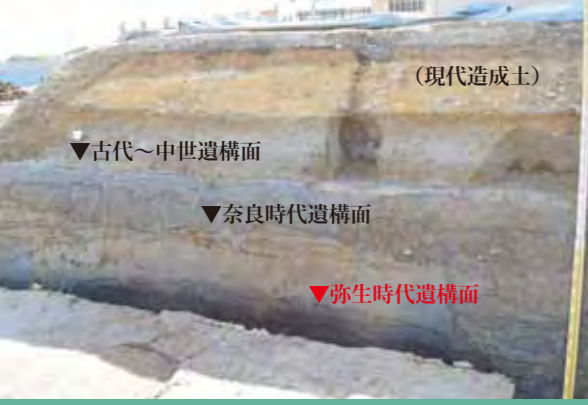


▲ 畦畔には大畦畔と小畦畔があります。大畦畔は微地形の大きくなる場所に設けられており、ひとが歩けるほどの幅があります。

▼ 水田遺構の堆積の状態です。黄色い砂は水田を埋めた堆積物、そのすぐ下の暗い色の泥が水田耕作土です。畦畔はとても緩やかな盛り上がりで、それを挟んだ両側の水田面の高さが若干異なります。



▲ 地層は、上ほど新しく、下ほど古い時代のものです。奈良時代の遺構面の下に、弥生時代の水田遺構を発見しました。



▲ 地層は、上ほど新しく、下ほど古い時代のものです。奈良時代の遺構面の下に、弥生時代の水田遺構を発見しました。